

恵庭市町内会連合会の平成26年度役員を紹介します。

恵庭市町内会連合会は、町内会・自治会活動に必要な情報の提供や調査研究をおこない、明るく住みよいまちづくりを推進するため事業を展開しております。この広報誌をとおして、市民の皆さんに市町連の活動や市内の町内会・自治会を紹介し、市民と地域をつなぎ、町内会活動に興味をもっただけ、参加していただけるよう情報をお伝えしていきます。



恵庭市町内会連合会会長
野原 聡

■本年度の役員

会長	野原 聡 (大町)	理事	水本隆夫 (中央)
副会長	宮崎光由 (中恵庭)		林 嘉男 (末広町)
副会長	下原干城 (駒場町南)		大高 修 (牧場)
副会長	山形 孝 (恵み野東)		水尾國夫 (恵央町)
副会長	鶴田 力 (島松仲町)		松崎政和 (恵み野南)
事務局長	河尻信男 (緑町)		川島隆雄 (中島松)
事務局長次	北林 優 (福住町1丁目)	監査役	河井二郎 (白樺北)
			鏡 貢 (島松本町)
会計長	三浦 功 (有明町)		加藤 強 (穂栄)

子どもたちの見守りに

6月2日に市町内会連合会は、恵庭市建設業協会から「セーフティハウスこども110番」事業の旗125枚を寄贈された。これは、同協会が平成22年度から市内各地域の建設現場を不審者などから子どもたちを守る駆け込み場所として確保していることをPRしているもの。市町連では旗を各町内会・自治会に2枚ずつ配布し、同協会と連携して「地域の子どもの安全を365日見守る」こととしている。



■編集後記

- ◆地域の繋がりを強化するため、会報誌「つなぐ」を有効に活用したいですね(下)
- ◆町内行事で活躍する青少年の成長の早さに驚き、我が身老化の進行に片目をつぶりたい(鶴)
- ◆会報誌「つなぐ」を通して他町内との友好を深められるよう、つないでいきましょう(水)
- ◆農作業、病院通いで編集に参加できず申し訳ありません(川)
- ◆「おもしろ恵庭学」に登場の田中菊治氏を知る人は少ない。しみじみと時の流れが感じられる。(河)

募集!

紙面で紹介したいユニークな活動をしている人、がんばる人の情報をお寄せください。

発行

恵庭市町内会連合会
広報部会

事務局

恵庭市役所
市民活動推進課内
(33-3131)

「楽しみのない、町内会活動は長続きしない」駒場南町内会の文化厚生部長として活躍する伊藤さんは、昭和63年から多くの会員とともに「町内を花いっぱい」との思いで、楽しみながら花壇づくりに励んでいる。「花の特徴や色のバランスなどを考えて設計図を描くんですよ」伊藤さんの奥様と副部長の星さんは、毎年2月に花壇の設計図を描くという。雪が解け土を耕し、肥料をあたえ、花を植える。多くの会員と協力し、毎日、手入れをする。以前は町内にある教会の敷地を借りて花壇を造っていたが、3年前に町内の企業に協力してもらい、現在のくるみ公園に花壇を造った。こうした、多くの会員の協力によって作られた花壇は、恵庭市花いっぱい文化協会の花壇コンクールで数多く入選し、今年も

町内を花いっばいに

3年連続となる最優秀賞に輝いている。「これからも会員の皆さんと協力し、花いっぱいの恵庭らしく楽しみながら続けたい」伊藤さんは今日も花壇造りを続けている。



駒場南町内会 文化厚生部長 **伊藤 直衛** さん (左から3人目)

市町連活動記録
(2014.1.1~8.31)

- 2.18 町内会連合会総会・表彰式
- 4.23 市理事者と町内会長等との懇談会
- 5.27 全道町内会連合会活動研究大会(札幌市)
- 5.28 全道町内会連合会総会(札幌市)
- 6.10 町内会長等親睦交流会
- 8.1 町内会活動実践者研修会(札幌市)

■役員会等の開催状況
四役会(7回)、役員会(3回)
事業部会(1回)、広報部会(2回)



RELAY INTERVIEW

リレーインタビュー

女性が主役の 町内会活動

市内には、62の町内会・自治会があるが、女性が会長を務めているのは3つの町内会。会長や副会長などの役員を男性が担うことが多い中で、会長を含む役員8割が女性という女性が主役の町内会が緑町旭団地町内会である。

この町内会は市営住宅5棟、170世帯が入居する団地で構成している。会長の柴田さんは平成16年から会長を務めているが、それまでは副会長や婦人部長などを経験した。「私の前までは、男性が役員をしていたよ」と柴田さん。会長になってから多くの女性が役員になった。「昔から同じ団地に住んで顔見知りだし、色々頑張っているのを見ていたからね」と副会長の馬場さん。「恵庭に来る前にも別の団地で役員していた」と副会長の田中さん。高齢者

や女性の世帯が多い団地という特徴もあるが、女性が役員として集まり、みんなで会長をサポートする体制ができた。

緑町旭団地町内会では、毎月「ふれ合いサロン」を開いて会員同士で手芸などを楽しんだり、毎年の「レクリエーション旅行」などで会員同士の交流を図っている。「もっと事業を計画したいけど体力がついていなくて」と柴田さん。役員の高齢化が進んでいることや新たな担い手が不足していることが課題だという。「若い人たちを役員に育てること」を目標に役員さんは毎日活動を続けている。

緑町旭団地町内会 会長
柴田 幸子さん



柴田さん(左から2人目)と役員のみなさん

報告

市民の広場 「10年後の恵庭」をテーマに開催



市民の広場は、町内会・自治会や様々な団体などが市長らと対話しながら協働のまちづくりを進めるため、市が平成23年度からおこなっている事業である。

町内会や自治会では、各地区の町内会連合会が中心となり、市に除雪や道路・公園の整備、交通安全や防災などの改善を求め、市長との対話をとおして身近な生活環境の改善に努めてきた。

今年の市民の広場は、私たちが住むまちをどのようなまちにするのか、将来像やその手法を示す「恵庭市総合計画」が、平成28年度から新たにスタートすることから、この新しい計画に市民の意見を反映させるため、「10年後の恵庭」をテーマとして7月に市内を7地区に分けて開催し235名が参加した。

昨年までは、市長はじめ職員と市民が

分かれて座っていたが、今年は4~5人程度が座るテーブルをいくつか用意し、市長らがそれらのテーブルに1名ずつ座り、和やかな雰囲気の中、ざっくばらんに懇談。参加者は「恵庭は災害が少ない」「水源が豊できれい」などのまちの魅力や「働く場が少ない」「高齢者対策の充実を」といった課題などを自由に意見を出した。

こうした意見は、これから市がつくる「第5期恵庭市総合計画」に反映される。また、身近な生活環境の改善に関する要望は、多くの町内会や自治会から市へ提出され、市から回答される。



おもしろ 恵庭学

第5回

林田の町名の由来は?

文責:恵庭昭和史研究会 林 嘉男

林田は島松地区にある農村部の町名です。とても由緒ある名前です。林田とは林清太郎と田中菊治のそれぞれ頭文字をとって付けたものです。林清太郎は石川県の人で漁太・東島松地区の開拓を進めるために加越能開耕株式会社の代表を務めた人です。田中菊治はこの林清太郎の農場の管理人で、後の初代恵庭市長です。ちなみに、田中市長は村長から市長まで通算20年を勤めたほか村会議長、道会議員を勤め、恵庭の行政の基礎づくりと発展の立役者です。(敬称略)



市長時代の田中菊治氏